



照明普及会だより

第8号

〒100 東京都千代田区有楽町1-7-1
有楽町電気ビル 北館5F
平成2年9月30日



総会風景



照明普及賞表彰式

第34回照明普及会維持員総会開催

去る5月24日第34回照明普及会維持員総会が開催された

冒頭、進藤会長の挨拶の中で、特に平成2年度の事業計画においては、激しく変遷する時代にあって、遅れをとらぬよう、効果・効率の向上の追求と豊かさを基本理念とした照明知識の普及、照明技術の向上を新しい目で見つめ考え、一步でも前進した活発な事業活動を展開して行くことを付言されるとともに、総会において平成2年度の事業計画が決定した。内容は、以下のとおり。

平成2年度事業計画

(平成2年4月～平成3年3月)

- (1) ライトアップ事例集の発行
 - 63年度に発行、好評を得た「ライトアップマニュアル」の第2号を発行し、ライトアップの計画・設計の手引きとする。(11月末発行予定)
- (2) 照明学会創立75周年記念事業への協力
 - 照明学会が平成3年11月に迎える創立75周年を記念して実施する事業に協力し「光」の役割をアピールするビデオを作成する。(3年10月末完成予定)
- (3) 優秀照明施設、照明普及功労者の表彰
 - 平成2年に建設される優秀な照明施設および永

年にわたる照明普及の功労者を表彰する。

- (4) 各地区普及活動に対する支援体制の整備
 - 前年度実施したアンケートの集約を参考に各地区の普及諸活動に対し、講師派遣・交流などの支援の具体策について検討実施する。
- (5) 「あかりの日」の啓蒙活動の実施
 - 「あかりの日」(10月21日)の啓蒙活動を、(社)日本電球工業会、(社)日本照明器具工業会、(社)日本電気協会と共催実施する。
- (6) 刊行物の発行
 - 照明教室 (No. 68, No. 69, No. 70)
 - あたらしい照明 (No. 110, No. 111)
 - 「ライトアップ事例集」以上のような事業を遂行するため平成2年度は次の専門部会を設置した。
 - 新設専門部会
 - ビデオ「日本の照明」(仮称)作成専門部会
 - 継続専門部会
 - 普及会だより専門部会
 - ライトアップ事例集作成専門部会
 - 地区普及活動の支援体制整備専門部会
 - 照明教室専門部会
 - あたらしい照明専門部会

北海道地区普及活動状況

ライトアップ作戦 in 北海道

近年、“あかり”に対する意識が大きく変わろうとしている。

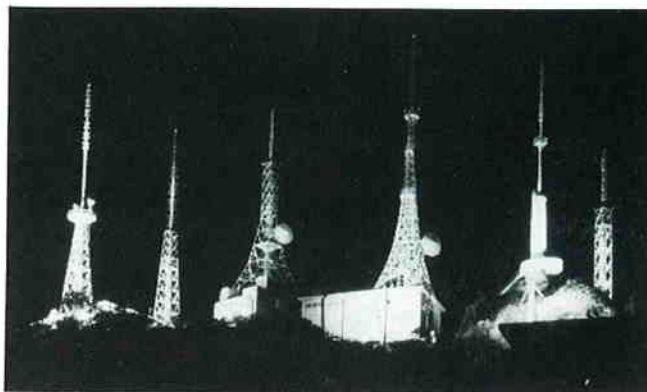
以前は、明かるければよかった照明も、今は明るさに加え「ゆとり」や「やすらぎ」さらには「快適さ」が求められるようになってきた。

“あかり”の歴史も、自然の光から^{なまつ}松明のあかり、ランプ・ローソクのあかり、そして今は電気のあかりへと移り変わってきている。

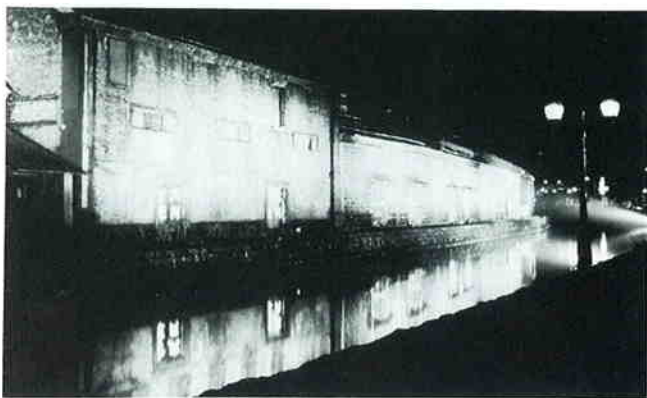
家庭の中では、個性的で魅力ある“あかり”づくりに関心が高まり、都市空間においては、その街のアイデンティティを高める一つのきっかけづくりに“あかり”が大きな役割を果たしている。

このような、夜間の都市景観を演出する“あかり”，いわゆるライトアップが全国各地でさかんに行われ、人々に喜びと感動を与えている。

ここ、北海道でも一昨年あたりから“あかり”が良好な都市景観づくりの主演として注目されはじめてきた。



室蘭市測量山TV塔ライトアップ



小樽運河倉庫群ライトアップ



ホワイトイルミネーション「サッポロ・プラザ」



函館山からの夜景

室蘭市の測量山TV塔のライトアップをはじめ、小樽市の運河倉庫群を中心としたライトアップストリート、さらに全国的にも有名となっている札幌市のホワイトイルミネーション、そして、今もっとも注目を集めているのが函館市のライトアップ作戦。

このライトアップ作戦は、FFT計画（ファンタジー・フラッシュ・タウン計画）と呼ばれ昨年9月に市内の歴史的・近代的建造物に試験的にライトアップを実施したのがきっかけとなっている。

今年度は恒久化に向けて、昨年の実績を踏まえ最も効果的な夜景となるように関係箇所と検討段階に入った。

同市はもともと函館山からの夜景が観光の一つとして有名だが、今回の計画が実現すれば、さらに夜景のグレードアップにつながり市の活性化にも寄与することになる。

北海道は四季折々に美しい季節の顔をもっている。この素晴らしい自然をバックにした個性的な“あかり演出”がさらに各地に広まり、快適な都市空間づくりをはじめ地域振興や地域の活性化へと発展することを、今後大いに期待したい。

(北海道地区 亀山)

東北地区普及活動状況

1. 全東北『新しいあかるい街づくり運動』3か年計画（平成元年～3年）の実施

東北地域においては昭和61年12月に仙台市において60万個イルミネーションで全国的にも有名になった第1回 SENDAI 光のページェントが開催されて以来、管内の自治体を中心に都市景観照明導入の機運が高まってきており、これまでのところライトアップを中心とした景観照明の仮設実験の件数は300件を上回り、設備が恒久化されたものだけでも50数箇所を教えている現状にある。

照明学会東北支部ではこの機運をさらに盛り上げ景観照明を活かした街づくり・地域づくりを進めていく観点から、平成元年度より全東北『新しいあかるい街づくり運動』3か年計画を推進しているところである。平成2年度におけるこの活動の力点は、①地域の活性化②地域の美観形成③生活におけるゆとりとやすらぎの創造の3点であるが、具体的な活動としては都市景観照明の推進・景観照明モデル都市の設定、重点イベントの展開、シンポジウム開催などによる市民意識の高揚、マスコミ・マスメディアを活用した効果的なPRを実施していくこととしており、秋口から年度いっぱいを目途に東北7県において都市景観照明シンポジウム・セミナーの開催に合わせてライトアップ箇所、イルミネーションフェスティバルの見学会等の付随イベントを開催していくこととしている。

2. ビデオ『都市（まち）のあかりを考える』の制作

照明学会支部では、全東北『新しいあかるいまちづくりの運動』の一環として平成元年12月14日(木)15:00～18:00エルパーク仙台のスタジオホールにおいて開催された光のページェント実行委員会主催のスターライトシンポジウム『都市（まち）のあかりを考える』に共催し、光のページェントおよび市内のライトアップ箇所の見学ツアーを実施し、管内各自治体の担当箇所、マスコミ各社、市民団体などが

平成元年照明普及賞受賞者に記載もれ（下線部）がありました。慎しんでお詫びするとともに訂正させていただきます。

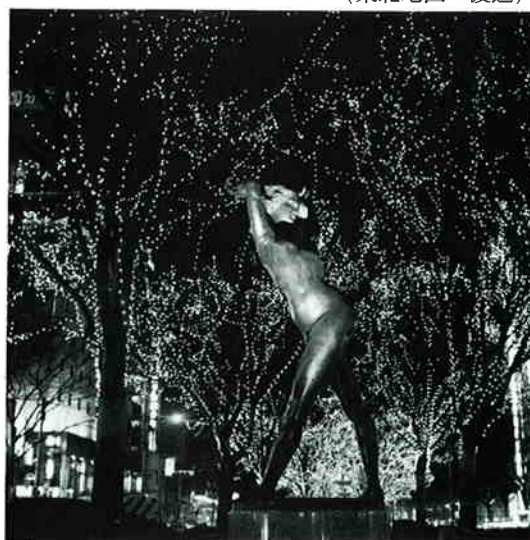


ら高い評価を得たが、その時のシンポジウムの内容をビデオに収録編集し、管内各自治体・商工団体を中心に寄贈・貸与することによりPR活用をしていくこととしている。

内容的には、照明デザイナー石井幹子氏の基調講演のほか仙台市助役、仙台商工会議所副会頭、建設省東北地方建設局長、日本青年会議所委員長、照明学会東北支部長、光のページェント実行委員会プロデューサーらによる熱心なパネルディスカッションの様子が収録されている。

現在、資料映像の第2段として東北管内および日本各地の代表的な景観照明、あかりのイベントを取材中であり、今後、PR用として編集していくことを考えている。

（東北地区 渡辺）



お詫び

アド・ホックホテル丸福 大宴会場 山口県徳山市
株式会社丸福ホテル取締役社長 福山 鷹治 殿
清水建設株式会社広島支店長 正文 殿

刊 行 物 紹 介

○照明教室 68, 照明のQ & A (I)

＜光源・照明器具編＞

○照明教室 69, 照明のQ & A (II) <照明設計編>

照明教室専門部会では“Q & A”シリーズの第4段として、上記の2冊をそれぞれ本年9月及び12月に発刊することにいたしました。内容の充実と、より御利用いただきやすくすることを目的として、照明のハードに関するものとソフトに関するものと分冊とし、設問数はどちらも66問で、“設問”～“解答”～“補足説明”の順で、どこが答えで、どこが関連知識かが明確になるような構成になっております。また、文章もできるだけ平易な表現になるよう努力いたしました。

なお、価格はどちらも1,000円(税込)送料別となっております。(牧原 記)

Q 1.3.9 蛍光灯は点滅を繰り返すと寿命が短くなると言われますが、どうしてですか？

A. 蛍光灯は始動時に、電極に塗布されている電子放射物質が点灯中より多く消費されるためです

【解 説】 蛍光灯の寿命の原因は、点灯中に電極に塗布されています電子放射物質(バリウム、ストロンチウム、カルシウムの化合物が主体)が徐々に飛散または蒸発によって消耗しつくした時に点灯しなくなるためです。

この電子放射物質の消耗は、点灯始動時の放電が安定するまでの短い間(グロー放電からアーク放電まで)に起こる飛散が、点灯中に主として蒸発による電子放射物質の消耗より、かなり多いことが大きな原因です。したがって、点滅回数が多いほど、ランプの寿命が短縮されます。また点滅時の電子放射物質の消耗度はランプの種類、照明器具、安定器、グロースタート(点灯管)、使用条件などによって、大きく変わる性質があり、一概にいえませんが、比較的短時間の点滅をくり返した場合の1回当りに短縮される時間は、0.5～1.75時間程度です。点滅周期と寿命の関係の1例を図に示します。

ライトアップレポート<北陸>

発 行 (社)照明学会北陸支部

発行年月 平成2年4月

建物6件、モニュメント4件、公園・広場2件、街路4件、橋梁1件、イベント3件の合計20件を紹介しております。

ライトアップレポート (北陸)



部 会 委 員 会 活 動 報 告

(平成2年4月～8月)

4月5日 あたらしい照明専門部会

○あたらしい照明110号「平成元年照明普及賞」の執筆分担を行った。

4月17日 役員会

○平成元年度事業報告、平成元年度収支決算報告、平成2年度事業計画案、平成2年度予算案について審議した。また、総会日程について確認した。

5月24日 第3回照明普及会維持員総会

○日本電気協会会議室にて、議案について承認され、平成元年照明普及賞の贈呈を行った。総会終了後、照明学会、日本照明委員会と合同で懇親パーティを行なった。

6月7日 照明教室専門部会

○次号以降の作成計画をたて、「店舗照明」を作成することとした。

6月11日 照明普及会だより専門部会

○普及会だより8号の編集計画および執筆分担を行ない、9号以降の予定および編集担当者を決定した。

6月12日 ライトアップ事例集作成専門部会

○事例をセレクトし、121件にしぼった。

6月21日 あたらしい照明専門部会

○あたらしい照明111号の特集号の内容を決定し、募集要項を作成した。

7月4日 企画推進委員会

○大阪関電会館会議室にて平成2年度の事業の進め方について審議した。会議終了後、花の万博の夜間照明について見学を行なった。

7月24日 ライトアップ事例集作成専門会ワーキンググループ

○事例の原稿の作成について調整を行なった。